



平成29年 9月 1日現在

総世帯数	1,450世帯
総人口	2,672人
男	1,253人
女	1,419人

### 地震対策について

中条東第三町会 北川 清三

当町会にお世話になり18年経ちました。その間、体育部で16年間、第二分団で13年活動させて頂いています。

第3回目の投稿になる今回は、地震について考えるところを若干披露させて頂きま

す。我日本は4つのプレート上にあり、M5.5以上の地震が年1回以上起きる地震大国です。地方別に見ると、30年以内にM7以上の大地震が起こる確率は、九州42%、四国10%、近畿5%、東海87%、そして中部は30%とのこと。松本平は全国ダム貯水量の1/5の地下水を蓄える土地です。

穂高神社には、泉小太郎が母屋龍(諏訪大明神化神)に乗り山を崩し、古代安曇湖の水を流した伝承があります。第二地区はこの様な地盤の特徴の他、牛伏寺断層延長上



にある為、地震の影響を強く受けるかもしれません。

そこで、以前に消防団旅行で行った神戸市の「人と防災センター」で得た情報についてご紹介させて頂きます。

一、死亡原因について  
夜間発生の為、テレビが飛んできて当たったケースが最多。

二、救助要因について  
自力救助が圧倒的。次いで近隣住民による救助・公的機関による救助は数%程度。

三、対策について  
①寝室  
重い物を置かない・シーツに笛をぬい付けておく。

### 常盤町の長元坊に特別住民票を

常盤町 市川 英夫

2002年8月から日本に大ブームを巻き起こしたアザラシ。特にタマちゃんの愛称で呼ばれたアゴヒゲアザラシは人気者となり、横浜市西区では(ニシ・タマオ)として名譽区民特別住民票まで発行されました。(前住所・多摩川・鶴見川・現住所・西区帷子川まで記載されました。)またタマちゃんグッズも作られ、ちょっとした経済効果もありました。その後、宮城県三陸町・埼玉県志木市・鳥取市等で相次いで野生のアザラシが見つかり話題になりました。

シが見つかり話題になりましたが、アザラシが居なくなる日本人の話題から何時しか消えて忘れ去られました。さて常盤町にはここ十数年常盤町を忘れることなく定期的に住み付いている、ひとつがいの長元坊がいます。毎年春になると訪れ常盤町の住人になります。昨年住んでいた巣をリフォームして産卵し、新しい命を誕生させます。

そして巣立ちの時、昨日まで優しかった親鳥が、「ここはお前の居る場所ではない、出て行け」とばかり激しく若鳥を追い払い、いつしか親子の啼き声も聞こえず、命を掛けた長元坊の子育ては終わり、秋の虫の音が聞こえる前に何処かに去り、再び翌年、春、何の前触れもなく突然常盤町に舞い戻り、新たな生活を始める鳥。

その雛に食べ物を頻りに運び与え、雛の啼き声に集まる力ラスを追い払い、守り、若鳥へと成長した子に飛び方を教え、時にはアンテナに止り空高く飛ぶ若鳥を見守り、さらに親子に意地悪するカラスの大群を一家全員で戦い、撃破する姿がしばしば見られました。

ただ相澤病院に来るヘリコプターだけは巨大な化け物に見えるのか、親子共々巣穴に逃げ込んで静かにしています。



## 第20回 第二地区文化祭

第二地区公民館・福祉ひろば20周年記念事業

●日時：11月11日(土)・12日(日)  
9:00～16:00(両日)

●場所：第二地区公民館・福祉ひろば

記念イベントも開催予定!

バザー用品募集中!!!

※諸般の事情によりイベント等の開催日時を変更する場合がありますので、今後閲覧される「文化祭」チラシで必ずご確認くださいませようお願い申し上げます。

第二地区公民館・福祉ひろば20周年記念

# 第16回第二地区盆踊り大会

8月12日夕、天候に恵まれ、過去最多の450名の参加者を得て、盛大に開催された。例年になく子どもの参加が多かった。殊に今年は20周年記念賞として波田名産のスイカが提供され、一層大会に華をそえた。



## 永く続けてほしい 青山様

8月の初旬、各町会で「青山様だい。ワッショヨイコラシヨ。ワッショヨワッショヨワッ」というかけ声が響いたものと思います。夏の子供たちの行事。青山様です。

江戸時代末期。男の子は青山様、女の子はぼんぼんが親町三町とうたわれた本町・中町・東町から始まり範囲を拡げたとされています。

平成4年に市の重要無形民俗文化財に指定されたこの行事ですが、少子化が進む昨今、ひとつの町会では行うことが出来ず、4町会が一緒に行うこともあるようです。

歴史ある子供の行事。永く続いてほしいと思います。



## すすき川

子供たちの二学期も始まり、暑かった夏の終わりも近く、暦の上では二十四節気の「処暑」が過ぎ、秋を感じさせる涼しさに戻ってきたように思います。でも「暑さ寒さも彼岸まで」とまだまだ暑さが続きそうです。

秋が来るというのに今年はトンボの姿を見ませんので友人とそんな話をしたら、そんなことはないと言われて近くの田んぼ、公園へ行ってみましたが見ることは出来ませんでした。世の中、季節の過ぎ方が少しずつ変わっているのか、環境が変化したのか、夏を振り返るのはまだ少し早く秋を期待するのはもう少し先にしたほうがよさそうです。

今年の夏は気候の変化が激しく、豊作を望む時期なのに期待が持てないものもあるようです。

台風の数も少ないように感じられ、当、松本市は比較的水の被害、風の被害も他から比べると少ないと思われまふ。こればかりは自然相手でお断りできません。いずれにせよ普段から、災害に対する心づもりをしておきましょう。

(佐藤)